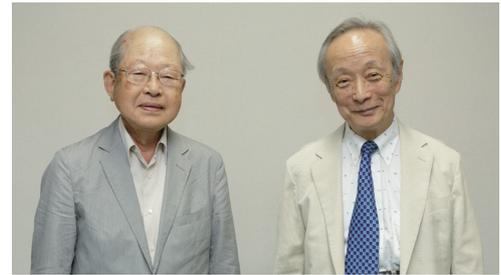


楽しく、かつ、有益な会を目指して

異業種交流グループ“プラザ62”

都産技研では、新たなビジネスチャンスの創造や発見のために、異なる業種や分野の企業が経営や技術ノウハウなどを持ち寄って交流する“場”である異業種交流グループの発足を支援しており、現在27グループ、約400企業が活動に参加しています。今回は、昭和62年に発足し、今年で30周年を迎えた“プラザ62”の代表の方々に、継続の秘訣や今後の活動目標などを伺いました。



事務局
株式会社 TSS 顧問
丸田 毅 氏

代表幹事 エタニ電機
株式会社 代表取締役
日野 捷吉郎 氏

異業種交流を通して元気に！

昭和62年に発足した異業種交流グループ“プラザ62”は、現在ソフトウェアや電子機器メーカーなどの経営者や個人会員などを中心に13名の会員で構成されています。毎月の定例会では、毎年テーマを決めての講演会やセミナー、工場見学会や宿泊研修会を開催するなど、発足から30年たった現在も精力的に活動を続けています。

“プラザ62”の魅力は異業種交流によって得られる刺激だと代表幹事の日野氏は言います。

「異業種の方と話すことはとても刺激的だと私自身実感しています。豊富な知識と経験の共有は、新しいビジネスのヒントにもなります。そして会員の活発な活動を見ることで、元気をもらっています。入会当初はビジネスの第一線からは退いていた方が、他の会員から刺激を受けて起業した例もあり、自分も頑張らねばという気持ちにさせてくれるのです」(日野氏)

気楽に参加できる雰囲気づくりから新たなビジネスが生まれる

会員企業同士の連携により、監視カメラや医療機器の開発につながった例も少なくありません。

「講習会やセミナーを企画する際は、堅苦しいものではなく、気楽な学びの場であることを心がけています。会員同士がざっくばらんに話す

中で、経営や事業のヒントが見つかります。気心の知れた関係を築くことで、共同開発などを行いやすい環境が生まれると考えています」(丸田氏)

こうした新たなビジネスを生み出すことだけが異業種交流グループの目的ではないと日野氏は強調します。

「“プラザ62”は、具体的な目標を達成するという集まりではなく、最新の情報を取り入れ、自分に不足している知識やノウハウを補う学びの場であり、気付きの場でありたいと考えています」(日野氏)

グループの垣根を越えた交流を実現する合同交流会

都産技研では、新たに発足した異業種交流グループの運営を補助するほかにも、グループ同士の交流や情報交換を目的に、東京都異業種交流グループ合同交流会を毎年2月に開催しています。この合同交流会は、都産技研だけでなく(公財)東京都中小企業振興公社の異業種交流グループも参加し、幅広い業界の会員や一般の方が一堂に会することで、新たな

ビジネスチャンスが生まれています。

「合同交流会で知り合った方々とグループの垣根を越えた交流や連携も実現しています。さらに、製品を展示したことがきっかけでマスクミに取り上げられ、販路開拓につながった例もあり、毎回の合同交流会に向けて力を入れています」(丸田氏)

最後に日野氏は、今後活動を継続する上で新会員の入会が重要だと言います。

「“プラザ62”では、会員の若返りが課題です。新会員を増やすためには、私たちの活動を知ってもらうことが重要だと考え、Webサイトのリニューアルを行いました。経営者にとっても、起業を考えている人にとっても、私たちの持つ技術力や経験、ノウハウは役立つと思いますので、多くの方にご参加いただき、お互い刺激し合いながら活発に活動を続けていきたいと考えています」(日野氏)

プラザ62

設立 / 昭和62年
会員数 / 13名
URL / <http://plaza62.net/>

東京都異業種交流グループ URL : <https://www.iri-tokyo.jp/site/jigyou/igyoushu.html>

主な活動: 定例会(月1回)において、参加者による自社紹介、情報交換、施設見学、他の異業種グループとの交流など

※初年度は都産技研が運営を支援し、次年度以降は自主運営

費用: 無料(グループの自主的活動に要する経費は、各自負担)

参加方法: 毎年4月頃会員募集を行い、新グループを発足します。既存グループへの参加をご希望の場合は、各グループにお問い合わせください。